

1. 評価結果概要表

作成日 2008年8月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0872000807		
法人名	有限会社 ライフファクトリー		
事業所名	グループホーム 美桜		
所在地	茨城県つくば市小野川10-12 (電話)029-861-8661		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成20年7月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算4.2 人	

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4)利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1		名	要介護2	3	名	
要介護3	6	名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	78 歳	最低	57 歳	最高	86 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	桜水会 筑波病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一角に位置し、目の前の児童公園は利用者の日々の散歩コースと共に地域住民との交流の場となっている。家族会の開催、地域との交流も盛んである。家庭的なホーム内には利用者の習字やちぎり絵等の作品がさりげなく飾っており、利用者の意欲を引き出す他、訪問する家族やボランティアの人たちを暖かく迎える雰囲気を作っている。職員は利用者の思いを大切にし質の高いケアの提供を実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は評価の意義の理解と活用・研修体制・重度化に向けた方針についてであったがカンファレンス会議にて検討し、改善に向けた取り組みを行っている段階である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が自己評価を行い職員に対しては出来上がった評価の確認をし、意義と理解に努めた。新しい職員に対しては再度、管理者より説明を行い理解を深めるよう指導した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに行政、ホーム担当者、自治会会長、民生委員、家族の構成により開催し積極的な意見交換を行い、職員にも会議内容を伝えている。議事録に内容を記載している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の開催時や面会時に利用者の状況報告を行う他、意見、要望を聞き、それを生かすように努めている。面会の少ない家族に対しては2週間ごとに電話連絡をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入してはいないが自治会主催納涼祭、餅つき大会等に共催の形で積極的に参加している。ホーム主催のイベントに地域住民の参加を呼びかけ、交流は盛んである。七夕の笹の提供、ホームの庭の芝刈りの協力を受けている。毎週月曜日にはホームの前がごみの集積所になっているので、利用者と職員とで清掃をおこなっている。ちぎり絵、オカリナ、ハーモニカ、音楽療法等数々のボランティアが盛んである。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が自分らしく生活するための理念を代表の奥様がつくりあげ、利用者がその人らしく生活できるようその理念に向けて、日々努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念をカンファレンス会議等で話し合い、共有し実践に向けて取り組んでいる。職員は理念を念頭においてケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の夏祭り、餅つき大会等を共催の形で参加している。ホーム主催の行事については隣近所に呼びかけて開催し、地域住民との交流に努めている。七夕飾り、芝刈り等の協力を得ている。毎週月曜日はごみの集積所の清掃を利用者と職員で行い住民より感謝されている。ちぎり絵、ハーモニカ、ギター、オカリナ、大正琴等ボランティアが盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価を行い、作成後職員に報告し共有に努めた。新しい職員に対しては、評価を実施する意義を説明し理解するように管理者より指導があった。前年の外部評価に関する改善点はカンファレンスにて話し合い改善に取り組んでいる段階である。	○	自己評価については管理者だけで行うのではなく、意義と活用を理解するというので全職員と共に考える必要がある。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに行政、施設関係者、自治会長、民生委員、家族の構成で開催し活発な意見交換の場となっている。席上地域包括センターのアドバイスによりリハビリ体操を日々のケアの一環として取り入れることが出来た。会議内容は書類に残し職員と共有している。欠席の家族に対しては後日報告を行っている。		

茨城県 グループホーム美桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政主催のグループホーム連絡会での勉強会へ参加している。担当行政へたびたび出向き指導を受けサービスの質の向上に努めている。高校生のボランティア活動の場として提供し、その学校から文化祭の招待を受けている。小学生のカレー作りの訪問もあった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時にその都度報告しているが、面会回数の少ない家族に対しては、2週間毎の往診にあわせ電話で利用者の近況報告をしている。報告内容は記録に残していないが今後はケース記録に残す。ホーム便りの発行も検討中。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談、苦情窓口の記載・家族会での意見交換や面会時に意見、要望等を聞き、それらを運営に反映するよう努めている。意見、要望等は行政にも伝達している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表、管理者は職員に対し勤務時間や休日の希望を出来るだけ聞くようにし、離職を防ぐように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で仕事上の助言や指導を行っている。勉強会、内外研修の参加後は資料をファイルしている。	○	外部研修内容をファイルするのみでなく最大限に活用するための報告会や勉強会を開催し全職員と共有することが望ましい。職員教育として小規模な勉強会でテーマを決めて全職員で取組まれたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月市内のグループホームサービス連絡会に参加し、意見交換や勉強会を行っている。管理者は毎月、職員は3ヶ月ごとに参加をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談があった場合は管理者が家庭訪問し状況を把握するように努めている。体験入居やデイサービスの利用を設けることによりホーム、職員、他の利用者や雰囲気馴染みサービス開始となれるように家族と相談をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として、沢山のことを教えてもらう機会があり、その都度感謝の言葉を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を尊重しその人にあった支援をしている。意思の確認が難しい利用者に対しては出来るだけ選択してもらうような場面を作り、表情やアセスメントシートを活用し本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議を開催し、課題やサービス内容につき利用者の具体的な介護計画を作成している。	○	利用者、家族、職員と話し合いチームで介護計画を作るのが基本であり、利用者がより良く暮らすための課題を見出すことが望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスでの意見をもとに見直しが行われている。	○	短期、長期が設定されておらず、利用者の変化を見落とすことのないように三ヶ月ごとの見直しが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されたデイサービスとの連携、交流を行っている。家族や地域住民からの相談を受ける場合もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎の主治医の往診や毎日の看護師の訪問があり、24時間対応可能な協力病院との連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。以前からのかかりつけ医に受診時は家族が付き添うが職員が対応する場合もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去にターミナルケアの経験あり、家族との話し合いにより個人個人に応じたケアを支援する。今後は医療、家族、職員との連携をとり、家族の同意書を含めマニュアルを整備する予定とのこと。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族に対し利用者の近況報告は居室で行っている。関係書類は事務所に保管し個人情報の取り扱いに注意している。写真等の掲示は家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとして大まかな時間設定はあるが、利用者のペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立を考え調理、盛り付け、配膳、食事、後片付けを職員と利用者が一緒に行い、楽しげな食事風景であった。野菜の買物等は利用者と一緒に週に2-3度出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴日、時間の希望に沿って支援をしている。毎日の入浴も可能であり季節に合わせ、菖蒲湯、ゆず湯で利用者の会話も弾むとのことである。入浴拒否者はいないが体調の関係で2-3日入浴できない利用者に対しては清拭している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の用意、洗濯、畑、裁縫等、利用者が楽しみながら出来る役割があり生き生きと生活している。ボランティアの訪問がたびたびあり利用者は楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	前の児童公園への毎日の散歩を利用者が楽しみにしている。そこで交わされる地域住民との会話は利用者にとって又楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前の道路は交通量が多く、危険防止のため家族の了解をえて施錠している時間帯はあるが、利用者の希望があればいつでも開けて弊害を起こさないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けながら消防、避難訓練の実施をしている。災害時の備蓄はない。	○	災害に備え飲料水や食料の備蓄は必要と思われる。職員にたいしての避難場所、避難経路の周知を図ってほしい。地域の協力を得るために救急救命講習等を実施されてはいかがでしょうか？

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取等チェック表で確認している。栄養バランスについては大まかに把握している。	○	栄養バランスは高齢者にとって大切なことであるので、協力医院の栄養士、行政の保健師の協力をえながら摂取状況の把握や体重の変化にも注意し健康管理に努めることが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい雰囲気では利用者は自宅の延長ととらえ、のんびりとした時間を過ごしており、ソファや食卓で利用者同士の会話を楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、テーブル、椅子、鏡の設置、家族の写真、利用者の作品等が飾られ利用者にとって安心できる居室になっている。		